

感嘆の的

「テサロニケの教会から学ぶ再臨を迎えるにふさわしい心とは？」



「その日に、主イエスは来られて、ご自分の聖徒たちによって栄光を受け、信じたすべての者の—そうです。あなたがたに対する私たちの証言は、信じられたのです—感嘆の的となります。」（2テサロニケ1章10節）

「山をも動かす祈り」

ゴードン・リンゼイ

CFNJ NEWS

クライスト・フォー・ザ・ネイションズ・ジャパン聖書学院

2026年1月・2号 NO.197

感嘆の的

「テサロニケの教会から学ぶ
再臨を迎えるにふさわしい心とは？」

「その日に、主イエスは来られて、ご自分の聖徒たちによって栄光を受け、信じたすべての者の一そうです。あなたがたに対する私たちの証言は、信じられたのですー感嘆の的となります。」（2テサロニケ1章10節）



学院長 鍛冶川利文

新年、明けましておめでとうございます！

2025年、最も日本で注目されたスポーツ選手は、アメリカのメジャーリーグで大活躍した大谷翔平選手でしょう。大谷翔平選手はアメリカのワールドベースボールシリーズで、ドジャースの優勝に大きな貢献をしました。この大谷選手の数多くの偉業は野球界だけでなく日本全体に大きな希望をもたらし、正に羨望の的となった人です。しかし、この大谷選手以上に、日本だけでなく、世界中に、いや全人類にとって羨望を超えて、人々から感嘆の的となられるお方がおられます。そのお方こそ主イエス・キリストです！

このお方は、初めてこの地上に来られた時は、神であることを捨て、人の姿をもって来られました。そして、全き人として十字架にお付きになり、全人類の救いの贖いをなしとげられたのです。しかし、イエス様が死なれ

た時は、多くの人々にとっては、失望と落胆の的となりました。それは神の救いと贖いの計画が分からなかったからです。しかし主は、生前に何度もご自身で言われていた通り、三日目に死を打ち破り、甦られ、新たに人類に救いの道を開かれました。そして、全てをなしとげられて天に昇られたのです。その姿をぼうぜんと見ていた弟子たちに白い衣を着た天使がこう言いました。

「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう。」（使徒1章11節）

「またおいでになるであろう。」これは驚くべき預言であり、私たちにとっての希望の日です。この日には主イエス様が力ある御使い

たちを従えて天から下って来られます。そしてその時、主を待ち望んでいた者から多くの称賛を受けられ、聖書には、「その日、感嘆の的となられる」（2テサロニケ1章10節）と書かれています。これは壮大な人類にとっての歴史的な瞬間で、新たな救いの始まりの時です。

感嘆の的となるということは、どのような状況でしょうか？それは、驚きと感動を持って迎えられるという事です。信者にとってはこの日、すべての目は、主イエス様を見上げ、すべて口は喜びの賛美に満たされます！（マタイ21章9節）そして思いは、この地上のものから離され、天にあるものに向けられるのです。（コロサイ3章2節）しかし、イエス様の福音を信じないで神を拒み続ける人々には、その日は恐怖と嘆きの時となるのです。

私たちもこのお方を感嘆の心でお迎えしたいと思います。では具体的にどのような心でお迎えすればよいのか、再臨を迎えるにふさわしい心をテサロニケの教会から見ていきたいと思います。

1. 従順と信仰を保ち続ける心

「兄弟たちよ。わたしたちは、いつもあなたがたのことを神に感謝せずにはおられない。またそうするのが当然である。それは、あなたがたの信仰が大いに成長し、あなたがたひとりびとりの愛が、お互いの間に増し加わっているからである。それゆえ私たちは、神の諸教会の間で、あなたがたがすべての迫害と患難とに耐えながらその従順と信仰とを保っていることを、誇りとしています。」（2テサロニケ1章3節・4節）

再臨の時に、イエス様を感嘆の的としてお迎えするにふさわしい心は、「従順と信仰を保ち続ける心」です。

テサロニケの教会はマケドニア（ギリシャ）の豊かな町にあり、パウロがわずかな期間で伝道し、急激に成長した教会でした。（使徒行伝17章）以前は偶像を拝んでいた人たちがまことの神を信じ、偶像を捨てて、熱心に御言葉を受け入れ、その教えを喜びをもって保ち続けました。（1テサロニケ1章6節）しかし、テサロニケの教会にはその熱心さと急成長ゆえの多くの問題がありました。それは内と外の問題でした。内には、不品行や自堕落といった道徳的な問題と、復活や再臨などといった教理に関する間違った主張など（2テサロニケ2章～3章）、熱心さゆえの行き過ぎた問題があり、又、外にはパウロを憎むユダヤ人をはじめ多くの迫害があり、町全体を巻き込むような暴動まで起こりました。（使徒行伝17章5節）その事で、パウロはテサロニケの教会に行くことができないほどでした。（1テサロニケ2章16節）そんな中、テサロニケの教会は、パウロが様々な迫害や苦難の中にあることを知って、あたたかな心でパウロを励まし支え、愛をあらわします。（1テサロニケ3章6節）パウロはそのことでテサロニケの教会に対してこのように言います。「私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのはだれでしょう。あなたがたではありませんか。あなたがたこそ私たちの誉れであり、また喜びなのです。（1テサロニケ2章19節・20節）

テサロニケの教会の人々は、内に外に様々な困難な状況がある中でも、忍耐を保ち

続け強く信仰を守り、むしろそのような困難な状況があっても、それをお互いの間に愛をあらわす機会と捉えて、良き働きをしていきました。パウロはそれを知ってこのように言っています。「あなたがたひとりびとりの愛が、お互いの間に増し加わっている。」(2テサロニケ1章3節)

教会の歴史を見ると、どの時代でも神を信じる者の上にはいつも苦しみと困難がありました。それはこの世からの拒絶や迫害だけでなく、日々の生活の中で起こる様々な苦難や困難。例えば、病気、貧困、生活の不安、戦争、環境の悪化、社会に於ける道徳やモラルの低下など。又、教会内でも分裂、不信仰、裁きあう事など、数え上げたら切りがない程、私たちの人生の中で様々な事が起こります。そのような状況の中、再臨の時に感嘆の的としてイエス様をお迎えするにふさわしい心とは、「善を行うのに飽いてはいけません。失望せずにいれば、時期が来て、刈り取るようになります。」(ガラテヤ6章9節)の御言葉の通り、再臨の望みがこの世からの逃避ではなく、むしろ困難な状況にも関わらず、忍耐をもって良き業に励む心です。テサロニケの人たちは、決して特別な人や、目だった信仰のスーパーマンではなく、むしろ目だたなくとも、イエス様の生き方に倣い、御言葉を素直に聞き受け入れ、主と同じ苦しみにあずかることを喜びながら、日々起こる、様々な困難な状況の中でも、喜んで愛の労苦を行ってきた人たちでした。

「また、あなたがたの心を強め、私たちの主イエス様がご自分のすべての聖徒とともに再び来られるとき、私たちの父なる神の御前で、聖く、責められるところのない者としてくださいますように。」(1テサロニケ3章13節)

2. 神の国の完成を待ち望む心

「このことは、あなたがたを神の国にふさわしい者とするため、神の正しいさばきを示すしるしであって、あなたがたが苦しみを受けているのは、この神の国のためです。すなわち、あなたがたを悩ます者には患難をもって報い、悩まされているあなたがたには、わたしたちと共に、休息をもって報いて下さるのが、神にとって正しいことだからである。それは、主イエスが炎の中で力ある天使たちを率いて天から現れる時に実現する。その時、主は神を認めない者たちや、わたしたちの主イエスの福音に聞き従わない者たちに報復し、そして、彼らは主のみ顔とその力の栄光から退けられて、永遠の滅びに至る刑罰を受けるであろう。」(2テサロニケ1章6節～9節)

次に、イエス様の再臨の時に、感嘆の的としてお迎えするにふさわしい心とは、「神の国の完成を待ち望む心」です。

パウロはここで、テサロニケの教会の人たちが迫害や患難にあうのは、何か悪いことや罪を犯したからという事ではなく、神の国の前進とその完成の為であると言っています。

クリスチャンが迫害や患難にあう理由は、患難から忍耐、忍耐から練られた品性、そして、最後には希望を生み出すためです。(ローマ5章3節)それと、信仰が成長する為です。(2テサロニケ1章3節)しかしここでパウロは、クリスチャンが迫害や患難にあう理由は、それだけではなく、「神の国にふさわしい者とする為」と、「神の正しいさばきを示

すしるしの為」であって、実にその真意は、「神の国の完成の為」であると言っています。ですからクリスチャンにとっては、神の国にふさわしい者になる為にはどうしても迫害や患難を通らなければならず、むしろ迫害や患難を通らされていることこそが、神の国に入る者としてのふさわしさ（正しさ）のしるしであり、証拠であるのです。

再臨の時、イエス様がこの地上に再び来られる時に、「神の国」は完成するのです！「神の国」とは「神の恵みによる支配」の事です。これはそれまでの霊的な、又は、精神的な国の支配ではなく、実際の物理的な支配の始まりです。実行支配の始まりです。これは神を待ち望む人々には救いの完成の時であり、正しい裁きと良き報いである休息と安息、自由と解放の時の始まりです。しかし、神を知らないと言い、恵みの福音を拒絶し続ける人たち（迫害を続ける者たち）にとっては、神の報復の時であり、神の恐ろしい裁きと刑罰の時の始まりとなります。

テサロニケの教会は短い期間に信仰が成長し、パウロから諸教会の中でも良い模範であると褒められました。それ故に教会はますます熱心になり、すぐにでもイエス様の再臨が来るのではないかと思いました。そして、その為には早く、神の国にふさわしい者とならなければならないと考えました。しかし、「神の国にふさわしい者」となることは、人の手によるものではありません。何故なら私たちの内には神を喜ばすものなど何もないからです。その事の注意を込めて、パウロは2通目の手紙であるテサロニケの第2の手紙を書き送らなければならませんでした。そこには「**不法の人の到来**」（9節）「**偽りと惑わしの力**

への注意と共に、「**落ち着いて心騒がせることなく**」（2節）又、「**堅く立って信仰を守るよう**」に教えます。そして、パウロの最後の祈りは、「神の国にふさわしい者」となることは人によるものではなくイエスキリストご自身と父なる神、そして聖霊なる神のなさる事である事を教え祈りました。

「どうか、私たちの主イエス・キリストと、私たちの父なる神、すなわち、私たちを愛し、恵みによって永遠の慰めとすばらしい望みとを与えてくださった方で自身が、あらゆる良いわざとことばとに進むよう、あなたがたの心を慰め、強めてくださいますように。」（2テサロニケ2章16節～17節）

ですから2つめのイエス様の再臨の時に、感嘆的としてお迎えするにふさわしい心とは、自分自身では自分をふさわしくは思えないけれども、ふさわしい者としてくださるお方である、主イエス・キリストを信じ待ち望む心です。

「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は強く信じているのです。」ピリピ1章6節

3. 召しを喜んで受け入れる心

「その日に、主イエスは来られて、ご自分の聖徒たちによって栄光を受け、信じたすべての者の一—そうです。あなたがたに対する私たちの証言は、信じられたのです—感嘆的となります。そのためにも、私たちはいつも、あなたがたのために祈っています。どうか、私たちの神が、あなたがたをお召しにふさわしい者にし、また御力によって、善



1 JAN

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

● 13日 / 3学期開始

2 FEB

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3 MAR

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

● 6日 / 卒業式

4 APR

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

● 13日 / 入学式

5 MAY

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6 JUN

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7 JUL

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

● 3日 / 1学期終了

8 AUG

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9 SEP

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

● 7日 / 2学期開始

10 OCT

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11 NOV

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12 DEC

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

● 4日 / 2学期終了

を慕うあらゆる願いと信仰の働きとを全うしてくださいますように。それは、私たちの神であり主であるイエス・キリストの恵みによって、主イエスの御名があなたがたの間であがめられ、あなたがたも主にあって栄光を受けるためです。」（2テサロニケ1章10節～12節）

イエス様の再臨の時に、感嘆的的としてお迎えするにふさわしい心とは、「イエス様の恵みによる召しを喜んで受け入れる心」です。

この「主にあって栄光を受ける」とは、来臨の時に、「ただイエス様にお会いできる事が栄光です」という程度の栄光ではなく、「栄化」という私たちも、「栄光の身体に変えられる事」です。たとえどのような病で苦しんでいたとしても、たとえどんな頑固な人であっても、又、どんな罪を犯した人でも、老人も子供も、人種や性別、身分、業績、裕福な人や貧しい人の分け隔てなく、誰でも、このお方を信じる者は主と同じ姿に変えられるのです。パウロはこのように言っています。

「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」2コリント3章18節）

「終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。」（1コリント15章52節）

この世界はやがて朽ちていきます。いずれは滅んでしまいます。しかし、この希望は朽ちることはありません。滅びることはありません。

せん。その時がいつかは分かりませんが、いずれ確かにイエス様にある永遠の命の中に、私たちも共に回復してくださるのです。この希望が「召される」ということです。

なぜ？このような栄光をイエス様と共に私たちも受けることができるのでしょうか。

なにを？したからこのような光栄に私たちもあずかるものとされたのでしょうか。

また、パウロが祈られたように、私たちが、「お召しにふさわしい者に」どのようにしてなれるのでしょうか？それは分かりません。でも、ただ言えるのは、放蕩息子が父の元に立ち返る（帰る）ならば、お父さんが喜んで息子を受け入れて下さったように、「ところが父親は、しもべたちに言った。『急いで一番良い着物を持って来て、この子に着せなさい。それから、手に指輪をはめさせ、足にくつをはかせなさい。そして肥えた子牛を引いて来てほふりなさい。食べて祝おうではないか。』」（ルカ15章22節・23節）

このように仰ってくださるのです。これは私たちの力や功績ではありません。イエス様が十字架で死んでくださった故です。主が一方的に私を愛し、選び、召してくださったゆえです。一方的な恵みです。私たちも主イエスご自身とその再臨を待ち望みつつ、信仰と希望と愛の内に新しい年も歩み続けたいものです。皆様の上に主の恵みがありますように。

「平和の神ご自身が、あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだを完全に守られますように。あなたがたを召された方は真実ですから、きっとそのことをしてくださいます。」（1テサロニケ5章23節～24節）■



世界的なビジョンの秘訣 「山をも動かす祈り」

ゴードン・リンゼイ
聖書教師・CFNI 聖書学院創立者



「こう祈りなさい。… 御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。」（マタイ6章9節～10節）

「終わりの日に、主の家の山は、山々の頂に堅く立ち、丘々よりもそびえ立ち、すべての国々がそこに流れて来る。…主は国々の間をさばき、多くの国々の民に、判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない。」（イザヤ2章2節～4節）

祈りには山をも動かす力があると申し上げて、イエスの約束を引用しても、たいていの場合人々は、それが何を意味するのか分かりません。主は「山」という言葉を比喩的に使っておられて、実際に祈りによって山というものを動かせるとはおっしゃらなかったと、彼らは言うでしょう。「山」という言葉が聖書の中で比喩的に使われているということは事実ですが、そのことで主の約束が弱まるわけではありません。

「山」というのは、国の象徴として使われることがあります。ダニエル書2章35、44節～45節では、キリストの御国は、「全地に満ちた…大きな山」とであると説明されています。イザヤは、「主の家の山」について語り、神の国が地上に成立されることを預言しました。その国は世界に平和をもたらし、その結果、国の人々は「その剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し」ます。しかし、ここで少し考えましょう。この偉大な、「主の家の山」、つまり神の国は、どのように成立され

るのでしょうか。驚くべきことですが、その答えは、神の民の祈りによってなのです。「こう祈りなさい。……御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように」とイエスが弟子たちに教えたのは、まさにこのことです。祈っても祈らなくても関係なく実現するもののために祈りなさいなどとキリストがおっしゃるはずがありません。当然そうなるのに、太陽が昇るように祈りなさいなどとは言われないのです。ところが、キリストは神の御国が来るように祈りなさいとおっしゃいました。その御国は、この世の国に取って代わるものです。（黙示録11章15節～16節）

御国はまず人々の心に 入らなければならない

私たちは、御国が天から下って来るまで祈るべきでしょうか。いいえ、イエスは神の国はそうに來ないことをはっきり言われました。

「神の国は、人の目で認められるようにして来るものではありません。『そら、ここにある。』とか、『あそこにある。』とか言えるようなものではありません。いいですか。神の国は、あなたがたのただ中にあるのです。」（ルカ17章20節・21節）

キリストが世界を支配するようになる前

に、まず人の心を治めなければなりません。そういう訳で、キリストに従う者の最も大切な働きは、人の心にたてられる国として、神の御国のことを宣べ伝えることです。これは使徒たちによって始められた働きですが、未だに終わってはいません。キリストはこう言われました。

「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。」(マタイ24章14節)

神は天の御座から、地上の人々の罪による悲しみや苦しみを御覧になって、世が完全に贖われる日を切に望んでおられます。神は実にそのひとり子をお与えになったほどに世を愛してくださったのですが、まだ一度もイエスの御名を聞いたことのない多くの人々に伝道されるのを待っていらっしゃるのです。教会はこのことについて何をしているのでしょうか。私たちはどうでしょうか。

教会の祈りに力がないのは、そのビジョンが狭過ぎるからです。多くのクリスチャンの祈りは、自分の都合ばかりを目的として祈ります。世界宣教のために、実際に重荷のある教会はどれだけ存在するのでしょうか。自分の教団以外の神の働きに関心を持っている教会は、果してどれほどあるのでしょうか。私たちは、自分のビジョンを広げなければなりません。キリストのからだ全体が一つとなって協力し合い、共に働いて初めて世界宣教は可能になるのです。教会が一致して初めて、世の人々はキリストが神の御子であることを信じるのです。

「それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。」(ヨハネ17章21節)

今こそ、教会がイエスの教えられた通りに祈らなければならない時です。「御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。」世が、イエス・キリストが父なる神に遣わされたことを信じることができるように、教会はその会員が一つになるように祈らなければなりません。このような祈りをするのできる人は、「私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください」と自分の必要のために祈る時、すみやかにその答えを見るでしょう。

私が救われてまだ間もない頃、世界的なリバイバルのビジョンを神から与えられました。伝道の召しに全くとらえられ、他の人生のいかなる希望も夢もみな薄れてしまいました。福音を宣べ伝えること以外、何もする気がなかったのです。

初期の伝道の働きは、不景気の時でした。そのような事情だったので、人は自分が本当に神に召されているかどうか、すぐ分かりました。多くの場合、伝道者の一週間の献金を合計しても、千円足らずでした。しかし、献金がどんなに少なくても、私自身は伝道者をやめようなどと思ったことは一度もありませんでした。

ところが、伝道の働きを始めた時から、不満に思うことがありました。それは、救われる人が少人数だったということです。一人か二人は救われますが、世界宣教を考えた場合、それは大河の一滴にしか過ぎませんでした。聖書から明らかに分かるように、神の御計画は福音が全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされることです。「すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい」とキリストがおっしゃった通りです。しかし、この分では、伝道の役目を果せそうになかったのです。

そんなある日、神は私たちにも、また他の

次ページに続く

人々にも、大群衆が一斉に救われるリバイバルがやがて来るということを示してくださいました。世界の至る所で何万人もの人々がみことばを聞きに集まって救われる、そのようなリバイバルの来ることをどんなに祈り、待ち望んだことでしょうか。そして遂に、神はリバイバルを起こしてくださいました。神の不思議な導きによって、私たちはそのリバイバルの真只中で働くことになりました。集会の計画を立てたり、集会の準備をする奉仕をさせていただきました。時間がたつに連れ、同労者たちが更に外国へ出かけ、何万、何十万人もの人々がみことばにふれる大会を持ち、リバイバルを体験しました。国々は感動させられました。宣教師たちが何十年も苦労して、少しの収穫しか刈り取れなかった所においても、神の驚くべきみわざがなされていったのです。このリバイバルは、それまでの歴史の中で見られなかったほどのものだったのです。

神がこのような世界的なビジョンを人々に与えてくださったことを感謝しています。これらの人々は、「御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれ

ますように。」と祈ることによって、報いとしての大きな喜びをいただきます。しかし、今までのリバイバルは、これから起ころうとしているリバイバルのしるしにしか過ぎません。教会は更にビジョンを広げ、更に大きな働きを目指さなければなりません。かつて、歴史の中で見られなかったほどのリバイバルのために祈らなければならないのです。教団や組織の境界を越えた、全世界に広がるリバイバルのビジョンを、神が与えてくださいますように。「御国が来ますように」と祈ることにより、自分の個人的な必要は満たされます。神が全世界に祝福を注いでくださる時に、私たちもあふれるばかりの祝福をいただくのです。

祈りによって山を動かす秘訣を学びたいと思う者は、世界的なビジョンを求めなければなりません。世界の収穫のために祈ることです。まだキリストを信じていない、何十億人もの人々の救いのために祈ることです。御国が来るように、また、地でもみこころが行なわれるように祈ることです。このように祈る者は、山が動かされるのを見、また、自分の願いがかなえられるのも見るでしょう。■

秋のフィールドデイ
(10/10)

2025 年 2 学期の様々な行事！あれこれ！

合同賛美祈り会
(11/14) ▼



ホクミンの牧師懇親会 (10/6)

北海道地区同窓会 (10/26)

学院のクリスマス会！

●ドラマ「ナルニア (ライオンと魔女と衣裳だんす)」3月6日卒業式の午後に再演予定。ぜひお越しください。

(11/29)



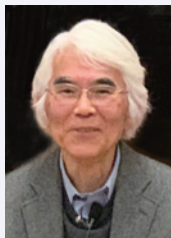
随時願書受付中!

cfnj.com

新入生募集中!

2026年4月入学、
各学期からの入学可。●アルプスコース (牧師・リーダー養成)
●1・2年本科コース (1学期だけの短期
で学ぶ事も可能です)無料体験入学
実施中!

平常授業のある3日間 (3泊4日)

CFNJ 講義・
ゲストスピーカー
のご案内2026年
1月・3月

米村英二 師

学院顧問・大津キリス
ト教会牧師 (熊本県)

有賀喜一 師

学院顧問・伝道者・
神学校教師

2026 1/19~23 1・2時間目

3/2~5 1・2 時間目 (6日は卒業式)

2025年度2学期からの
新講師のご紹介

神田満 師 (かんだ みつる)

空知太栄光キリスト教会牧師

「●講義科目/マタイの福音書Ⅰ・Ⅱ」

●自己紹介/砂川市の空知太栄光キリスト教会牧師として仕えております。24年前に当学院を卒業した時からずっとこの講壇に立つことを主に願って、ついに叶えられました。とはいえ教師一年生、教えることよりも学ぶことの方が多いと考えています。学院長ご夫妻をはじめとします先生方のご指導を仰ぎながら、後輩である学院生たちと共に成長させていただきたいです。皆様のお祈りに覚えていただければ幸いです。

2026年度1学期からの
新講師のご紹介

飯田結樹 師 (いいた ゆうき)

札幌ガーデンチャーチ牧師 / ライフコーチ

「●講義予定科目/キリスト者の霊的成長論」

●ご紹介/1985年札幌生まれ。元銀行員。韓国での神学修士 (M.Div) 取得を経て、教会を開拓。YouTube チャンネル登録者は9500人を超える。開拓5年目での燃え尽き体験から、働き人が「Doing (成果)」の罠から抜け出し、「Being (神にある存在)」としての安息を取り戻す必要性を痛感。現在は年間300件以上のカウンセリング・コーチングを行う傍ら、2026年より米フラー神学校・牧会学博士課程 (D.Min) へ進学し、「魂のケア」の学びを深めている。著書に『仕事と聖書』、最新刊『聖書の人物伝』(全5巻) など。

2025年度3学期 授業カリキュラムスケジュール
1・2年コース (2026年1月13日 (火) ~3月5日 (木)迄)

	月	火	水	木	金
1	旧約聖書 概論Ⅲ 鍛冶川利文 AM 9:15~10:10	テモテ書 長沢 克己 鍛冶川利文	旧約聖書 概論Ⅲ 鍛冶川利文	聖書の夫婦の学び 鍛冶川 紀子 Eバツ書Ⅱ	教会開拓 者訓練 伊藤 仁
2	のイエス 信仰 キリスト AM 10:30~11:25	聖書の自己像 三浦 雅範	マタイの福音書Ⅱ 神田 満	終末論 松原 望	
3	金聖主 AM 11:35~12:30			田中 博	

選択科目

(敬称略)

午後	ドラムクラス	フラッグクラス	タンバリン クラス上級 岡田 雄基	実習 (必修)	ドラマ演劇 クラス
PM 13:30~15:30	仲宗根昇平	張瓊文	ピアノクラス 岡田 雄基		鍛冶川 紀子 岡田 雄基

●ゲストスピーカーの講義は、どなたでも聴講できます。聴講は無料です。(席上献金あり。一部授業は有料) 又、各コースの授業も聴講可能です。(有料) 詳しくは学院事務局迄お問い合わせください。

CHRIST
FOR THE NATIONS
JAPAN

宗教法人 アジアキリスト福音宣教会・クライスト・フォー・ザ・ネイションズ日本校

CFNJ聖書学院

〒061-3216 石狩市花川北6条5丁目157
(0133)74-1341・1342 FAX 74-1343●HP: www.cfnj.com 郵便振替: 02780-4-4688
●e-mail: office@cfnj.com 学院長/鍛冶川利文